

関西医科大学附属看護専門学校の 「情報科学」に関するアンケート

関西医科大学 教養部 松久 昌子

matsuhis@makino.kmu.ac.jp

1、はじめに

関西医科大学附属看護専門学校は1学年80名、全学240名の看護師の養成を目的とした専門学校である。「情報科学」の授業は1年次の後半に開講され、講義1コマ(90分)、実習2×3コマ(540分)である。学生が自由に使用できるパソコンは図書館に2台と各教室に2台など、学内には合計15台用意されている。かつ、業務に差し支えが無い場合には、学生の申し出により、教員が使用するノートパソコンの貸し出しが行われている。2年次の看護研究、3年次の事例研究におけるまとめ、及び発表の準備、また学校祭の準備などで使われている。また学内にある寮には個人所有のパソコンの持ち込みも可能である。「情報科学」の授業として、20組ほどが一斉にパソコンの操作を行うには、パソコンの台数が不足している。従って、講義は学生が通常使っている教室でノートパソコンとプロジェクターを使って行い、実習は離れた所に在る関西医科大学専門部の医学情報処理室で行われた。本学の卒業生のほとんどが3つある関西医科大学附属病院に就職する。臨地実習は附属病院でおこなわれ、院内は電子カルテ(すべてまたは部分的)が採用されており、院内ではパソコンはインフラとなっている。実習にでる前に、関西医科大学附属病院内のシステムの説明が情報センターによってなされている。仕事はパソコンの画面を見ることから始まり、クリックで次々と選択及びデータの入力を行う。クリックの回数の多さに対する不満はあるものの、後で見る画面がきれいな、読みやすい活字であることの利点は大きい。また医療看護の現場で必要とされる資料の作成および発表におけるパソコンの使用頻度も高いものがある。医療看護の現場で働く誰もが、パソコンの基本操作に習熟しているが要求されている。学内のパソコンの台数の不足を理由に、他教科の担当者から学生に課せられるものとして、パソコンを使った課題の提出は断念されている。今後、学生の受ける看護実習が関西医科大学附属病院で行われることなどを考え合わせると、「情報科学」の授業が関西医科大学の医学情報処理室でなされることは適切であると考えられる。かつ医学情報処理室の管理者のサポートあり、今後のアドバイスを期待できるのも非常に好ましいと考えられる。ただし、使用できるパソコンは2人で1台という状況である。授業改善のためにアンケートを実施したのでその結果を報告する。

2、現状

受講生がどれほどパソコンに習熟しているのかを知るために行ったアンケートの一部である。

表1

| 使用頻度 | 人数 |
|----------------------------|----|
| 「2日に一度以上」又は「週に1、2回」 | 39 |
| 「月に1、2回」 | 21 |
| 「年に数回」、「触った程度」又は「使ったことがない」 | 24 |

表1は、受講生のパソコン使用頻度について質問に対する回答である。約半数の学生はそれほどパソコンを使っていないと考えられる。また、入学時の年齢から、受講生うち、現役

は74人である。従って、11.9%は高校での「情報」の授業を必ずしも受講していないと考えられる。「年に数回」、「触った程度」又は「使ったことがない」のグループは当然のごとくパソコンの基本操作に不安があるものの、「情報科学」の

授業は楽しいものであると考えてくれているように思われる。いつもの教室ではないのが理由かもしれない。

表2

| キーボードの扱い | 人数 |
|------------------------|----|
| 「キーを見ずに打てる」又は「キーを見ながら」 | 54 |
| 「キーを探しながら」 | 29 |
| 「触ったことがない」 | 01 |

表2は、「キーボードをどの程度扱えますか。」に対する回答である。

「触ったことがない」と答えたのは1人しかいなかったもので、2人で1台のパソコンという状況では授業進行には差し障りないと考え

た。しかし、アンケートとは別に、実習中に遅いと判断した数名の学生に対して、特別にキーボード操作の訓練をする必要があるとのアドバイスを受けた。キーボード操作が稚拙であることは業務進行上問題があるというのが理由である。大半の学生が自由にパソコンを操作している中で、少数の学生のみタイピングの練習をさせるのは心苦しいものがある。

表4

| 「パソコン上で電子メールを使ったことがありますか。」 | 人数 |
|----------------------------|----|
| 「2日に一度以上」又は「週に1、2回」 | 11 |
| 「月に1、2回」 | 10 |
| 「年に数回」、「触った程度」又は「使ったことがない」 | 63 |

表4は、「パソコン上で電子メールを使ったことがありますか。」に対する回答である。「携帯電話のメールは使いますか」に対しては全員が使うと

答えている。業務においては、連絡先の人々の存在が重要であるので、メールが使われることはあまりなく、電話の方がよい。しかし、通信の受け手がいなくても、受信できることの利点は大きい。

表5

| WWW(インターネット)の使用頻度 | 人数 |
|----------------------------|----|
| 「2日に一度以上」又は「週に1、2回」 | 40 |
| 「月に1、2回」 | 21 |
| 「年に数回」、「触った程度」又は「使ったことがない」 | 23 |

表5は、「パソコン上でWWW(インターネット)を使ったことがありますか。」に対するものである。ホームページを作成した経験者が13名、経験の

ないのが71名である。

表6

| パソコンの専有 | 人数 |
|---------------------|----|
| ある | 22 |
| 専用ではないが、自由に使えるものがある | 40 |
| ない | 22 |

表6は、「自分専用のパソコンがありますか。」に対するものである。パソコンを持っていない学生が22名もおり、パソコンを使った課題の提出は無理と考えられる。

3、授業内容

講義は携帯メールから始めて、パソコンでのメールの常識、著作権、コピーと貼り付け、個人情報保護、病院でのオーダーリングシステムである。実習の1回目はインターネットを使って検索し、ワードで日本語の入力の練習を行った。実習の2回目はエクセルにデータを入力し、簡単な計算を実行し、グラフ化をするなど、エクセルに関する基本操作を試みた。実習3回目はパワーポイントによるプレゼンテーションの資料として、スライドの作成をおこなった。課題は各班すべて異なったものを与えた。発表を促したが、希望する者はいなかった。実習の最後に授業に対する評価のアンケートを実施した。アンケートは無記名であり、成績とは何の関係もないと強調したが、担当者の目の前での記入

は正直に書きづらいものがあったかもしれない。昨年まで、行っていたメールの送受信はやめた。実習期間中のみ使用可能であり、実習後は使えないし、2人で1台のパソコンを使っているのでメール本来の使い方ができないというのが理由である。また、医療看護の現場では、画像データの取り扱いが重要との認識から、画像データを取り込んだ自己PRの作成を学生にさせていた。各自に写真を提出させ、時間の足りなくなるという恐れから、担当者が電子化していたので、個人情報保護の観点から今回はやめにした。

4. 授業評価

授業の最後に実施したアンケートは授業評価に関するものである。表7は、「この授業を意欲的に受講しましたか。」という問いに対するものである。84.5%の学生が何らかの期待を抱いて受講してくれたようである。

表7

| 授業への意欲 | 人数 |
|-----------|----|
| あてはまる | 35 |
| ややあてはまる | 36 |
| どちらでもない | 08 |
| ややあてはまらない | 02 |
| あてはまらない | 03 |

表9

| 向上 | 人数 |
|-----------|----|
| あてはまる | 33 |
| ややあてはまる | 41 |
| どちらでもない | 05 |
| ややあてはまらない | 02 |
| あてはまらない | 03 |

表11

| 教え方 | 人数 |
|-----------|----|
| あてはまる | 14 |
| ややあてはまる | 35 |
| どちらでもない | 21 |
| ややあてはまらない | 07 |
| あてはまらない | 07 |

表13

| 授業方法の工夫 | 人数 |
|-----------|----|
| あてはまる | 13 |
| ややあてはまる | 32 |
| どちらでもない | 25 |
| ややあてはまらない | 06 |
| あてはまらない | 08 |

表8は、「内容を理解できましたか」かに対するものである

受講生の85.7%が内容を理解できたと答えており、内容は適切であったと考えられる。

表9は、「考え方、能力、知識、技術などの向上に得るところがありましたか」に対する回答である。表10は「教員に熱意は感じられましたか。」に対する回答である。熱意の方は伝わったようである。表11は、「教え方(教授法)はわかりやすかったですか。」に対するものである。教授法をよしと判断してくれる受講生は58.3%である。

表12は、「教員の一方的な授業ではなく、コミュニケーションはとれていましたか。」に対する回答である。57.1%としか話を聞いてくれないわけである。

表13は、「授業方法は工夫されていきましたか。」に対する回答は工夫ありと判断した受講生が53.6%

であったことを示している。「教員の話し方は聞き取りやすかったですか。」に対して、「まあまあ」まで含めて62.3%が聞き取りやすかったと回答している。「教員が私語や携帯電話を注意するなどして、教室に良好な勉学の環境が保たれていましたか。」の質問に対して「やや」まで含めて「保たれていた」とする回答が36.9%、なんともいえないが38.0%となっている。教室内はかなりうるさい状態だったと思われる。表14に「パソコンに

表8

| 内容の理解 | 人数 |
|-----------|----|
| あてはまる | 27 |
| ややあてはまる | 45 |
| どちらでもない | 04 |
| ややあてはまらない | 05 |
| あてはまらない | 03 |

表10

| 教員の熱意 | 人数 |
|-----------|----|
| あてはまる | 47 |
| ややあてはまる | 23 |
| どちらでもない | 07 |
| ややあてはまらない | 04 |
| あてはまらない | 03 |

表12

| コミュニケーション | 人数 |
|-----------|----|
| あてはまる | 24 |
| ややあてはまる | 24 |
| どちらでもない | 26 |
| ややあてはまらない | 05 |
| あてはまらない | 05 |

よる資料提示は見やすかったですか。」についての回答をのせる。66.6%の受講生が見やすかったと答えている。

表14

| パソコンによる資料提示 | 人数 |
|-------------|----|
| あてはまる | 16 |
| ややあてはまる | 40 |
| どちらでもない | 15 |
| ややあてはまらない | 06 |
| あてはまらない | 07 |

一人二人、1台のパソコンを2人で使うことに批判の声があったものの、72.6%の学生が教室の形状、施設および施設に対して満足してくれたことは授業の担当者としては非常にやりやすかった。表16は、「この授業を総合的に判断すると良い授業だと思いますか。」に対する回答である。

表16

| 総合的判断 | 人数 |
|-----------|----|
| あてはまる | 26 |
| ややあてはまる | 38 |
| どちらでもない | 15 |
| ややあてはまらない | 02 |
| あてはまらない | 03 |

しかしながら、最終回のアンケートに回答を記入するときに、スクリーンから遠くにいる学生からスクリーンの文字が見辛く、具体的なパソコンの操作が分からなかったと言われた。パソコンの操作に慣れているものとしてはそれほど見難い画面とは思えなかったが、教室が縦長で片方にスクリーンがある状況では教室の半分ぐらいまでが適切な使い方であったと思われる。表15は、「教室、施設、設備は良かったですか。」に対するものである。

表15

| 教室、施設、設備 | 人数 |
|-----------|----|
| あてはまる | 30 |
| ややあてはまる | 31 |
| どちらでもない | 09 |
| ややあてはまらない | 05 |
| あてはまらない | 09 |

「やや」も入れて、「良い授業」だと判断してくれた受講生は76.2%もいる。この総合的判断の平均値は3.98である。

5、まとめ

以上をまとめ、今後、改良すべきは次の点である。教室の形状が縦長のためスクリーンが後方では見辛いことを考慮して、授業の進行速度を遅くする必要がある。声が行き届かないのから、マイクの使用の要望があったが、使っている教室の隣が図書室であり、静寂を要求されており、マイクの使用は断念せざるを得ない。教室内を巡回して個別に適切なアドバイスを与えることが、非常に効果があると思われる。「情報科学」の担当者は同じ学生の「生活科学」を前期に担当しており、既に顔なじみである。受講生は担当者に対して非常に好意的であり、看護学生の特質ではないかと思われるほどである。これは、本学の他の教官の薫陶によるものであり、よき看護師を育成する第一歩の確かさを示すものである。アンケートにより学生の現状を把握したり、授業の評価を求めたりすることなく、授業をすすめながら、学生との会話をとおして、現状とか要望を汲み取り、授業の内容を柔軟に変えていくことが必要なのではないだろうか。